

学校が子供たちに神は性的に中立と教え、「父」を祈りから 締め出す

カトリックの学校で、「主」「父」「息子」という語が禁止される

【訳者注】これは滑稽とも恐ろしいとも言える、本当の話である。まずこれは、日本語ではほとんど問題にならない。英語では God Himself と表現するところを、「神ご自身」といえば済むからである。しかし、英語を話す人々のために注意するなら、「神は性的に中立」ということ自体が間違っている。神は「性的に中立」でも、両性具有（オトコオンナ）でもなく、男女の区別の根源そのものだからである。神は人間を男と女に分け、そのそれぞれのあり方を定めたとも言える。この当たり前の解釈を曲げることによって、神の敵のために働こうとする者が今、大量に現れている。すなわち彼らは、性的異常者は異常でなく、神に淵源があると言いくるめようとしている。

また、God Herself でなく God Himself であることも、自然の秩序を言い表す表わすものである。我々は必ず「男女」と、男を先にして言っている。これはフェミニストが言うように、困ることも怪しからぬことでもない。これは、男は女より偉いという意味ではない。男は、夫婦や家庭というチームの秩序を保つための、キャプテンだということで、それは特権でなく役目にすぎない。これを、神も男性も許せないと怒り狂う人々は、サタンやイルミナティに利用されるだけの、彼らに仕掛けられた者たちである。

Pippa Monroe, www.neonnettle.com

June 2, 2019



オーストラリア、ブリスベーンのエリート・カトリック学校が、穏やかな性偏見の言葉を使って、怪しげな行動を取る

オーストラリアの一部のカトリック学校では、神は性的に中立だと子供に教え、祈りから「父」「息子」「主」という言葉を禁止している。 <https://neonnettle.com/tags/gender>

ブリスベーンのエリート・カトリック学校では、子供たちを教えるのに、あえて異論のある方法を取り、祈ったり、神に言及したりするときに、問題を起こさない“両性的言語”(inclusive language)を用いるようにしている。この異論あるやり方を取ろうとする主導的な学校には、Loreto College、All Hallows、それに Stuartholme School がある。ブリスベーン内市にあるスチュアートホーム学校は、「彼自身」という代わりに「神自身」(Godself)という言葉を使うように教えている。

関連記事：「イギリスの学校で、トランスジェンダー性教育が5歳児の必修科目となる」
<https://neonnettle.com/news/6617-transgender-sex-ed-classes-to-be-legal-requirement-for-5-year-olds-in-uk-schools>



スチュアートホーム
学校

この教育のある代弁者が Sunday Mail にこう話した:——

「私たちは、神は男性でも女性でもないと考えていますから、スチュアートホームでは、祈りでは性的に中立の (gender-neutral) 言葉を使うようにしています。…したがって私たち

の仲間は、自分たちにとって神とは何ものか、いかに神が創造を通じて、神自身 (Godself) を明らかにしているかが理解できるのです。」

Coorparoo の Loreto College もまた、Lord という言葉を、それが「男性の言葉」なので、祈りからはずしている。

この学校の校長 Kim Wickham は、彼らの祈りは、生徒たちが使うように書かれていて、彼らは神に一つの性を与えていないと言う。しかしウィッカム女史は、ある言語は、男女の別が避けられないようになっていくにつけ加えた。セント・リタ・カレッジでは、性別のない言葉を使っているが、伝統的な祈りを捧げるときは、性別のある言葉を用いている。

関連記事：「学位をもつある人が、子供は“性的流動性”をもって生まれてはこない、と主張してクビになる」 <https://t.co/hyVXShoggV>



ロレート・カレッジは、主 (Lord) という言葉を、男性の言葉だとして、彼らの祈りから全面的に追放した

副校長 Richard Rogusz は、学生が言葉の問題について参照する備考は、適切なものだったと言った。

女性参加のためのカトリック部局長 Andrea Dean は、学校が両性的言語の方向へ動いているのは「ぞっとする」ことで、「おそろしい」と語った。

クイーンズランド・カトリック教育委員会は、正しい言語についてガイドラインを提供していないが、オーストラリア・カトリック司教会議は、学校は、適用可能であれば、性中立の言葉を使うべきだと言った。

ブリスベーンのトップ・カトリック男子校である、セント・ジョセフ・カレッジは、brothers という言葉を sisters and brothers、また、brotherhood を international community に取り換えさえしている。

「これは最近の我々にとって、成長した部分だ」と、ある代弁者は、サンデー・タイムズに語った。「我々は、多くの祈りの言葉に変更を加え、より両性的なものにした。」

今年早くに、イギリスのトップの全女子校が、トランスジェンダーの学生を傷つけないために、girl という言葉を使うことを、禁止すると通告した。

マンチェスターの Altricham 女子小学校は、girl という言葉は、もはや学校職員の語彙の一部ではなくなると言い、それはトランスジェンダーの生徒の性別を間違えて、あまりにも苦痛を与えるものだと主張した。

関連記事：「学校は今や、8歳の男子生徒に〈彼らもまた生理日を持つことができる〉と教えることを要求されている」 <https://neonnettle.com/news/5957-schools-now-required-to-teach-8-year-old-boys-they-can-have-periods-too->

——以上